

報告

地域医療に関わる地域別意見交換会

小樽市・富良野市

常任理事・地域医療部長 伊藤 利道

本意見交換会は、当会から長瀬会長ほか役員が出向き、地元医師会役員・会員から地域医療の現状を直接伺うため、平成20年度から開催している。今年度からは行政側の出席を求め、通算18回目を小樽市で、19回目を富良野市で開催した。

両会とも長瀬会長、地元医師会長の挨拶後、当会から「病床機能報告制度、地域医療ビジョン、地域医療介護総合確保基金〔新たな財政支援制度（新基金）〕」「緊急臨時的医師派遣事業」「地域医療支援に関する意向調査」「地域医療を守る住民活動に関するシンポジウム」「医療優先固定翼機（メディカルウイング）」について説明した。続いて各圏域における「地域医療の現状と課題」をテーマに意見交換を行った。

【小樽市】

平成26年7月16日（水）午後6時からオーセントホテル小樽で開催した。出席者はオブザーバーの北海道保健福祉部地域医療推進局荒田局長、大竹地域医療課長を含め28名であった。

小樽市医師会の阿久津副会長より「小樽市の医療情勢～全道10万人以上の市の中で最も高齢化率の高い小樽市～」と題して現状説明があった。住民の高齢化が進んでおり、それに合わせた医療・介護体制を構築していかなければならないこと、医師会立看護学校の実習病院の確保が難しいこと等、後志地域の今後の課題について、詳細な分析・解説がなされた。

意見交換では、小児科の開業医が減っているため勤務医が健診業務等も担当しなければならなくなっていること、地域包括ケア病棟・病床連携のための関係者による会議が必要なこと、看護師不足のため小樽市医師会看護学校の卒業生が市内に残ってもらわないと小樽市の医療が崩壊してしまうこと等の意

見が話題となった。

道・荒田局長からは「高齢化が早々に進んでいる小樽市においても地域医療ビジョンや新基金について協議していきたい。小児科開業医の不足、看護師確保についてどういった方策を考えていくべきか、相談させていただきたい。」とのコメントがあった。

【富良野市】

平成26年7月30日（水）午後6時半からニュー富良野ホテルで開催した。出席者はオブザーバーの山谷副知事、大竹地域医療課長を含め32名であった。

「富良野地域の医療、現状と課題」として、まず富良野医師会の小山内理事より「救急医療」について報告がなされた。「富良野協会病院は、病床数255床、常勤医20名の二次医療圏におけるセンター病院である。平成21年度から新たな一次救急医療体制として、救急外来を富良野協会病院に一元化した。新しい救急体制が出来て5年が経過したが、この体制が良好に経過している理由は、開業医とセンター病院の医師との関係が良好でコンタクトが取りやすくなったこと、コンビニ受診者の割合が減ったこと、住民の意識が変わってきていること等である。」

続いて、角谷理事より「富良野市医師養成確保修学資金」について説明があった。「この修学資金は、旭川医科大学の在学学生を対象に、富良野協会病院で1年以上の初期研修、旭川医科大学で2年以上の後期研修、在学中に富良野協会病院の地域医療貢献実習に参加すること等を条件に、月額5万円を貸付けるものであり、初年度から5名の利用がある。」

意見交換では、鎌田富良野市保健福祉部長より「地域医療の課題を富良野市民に広めていく必要がある。そのため、市内17会場で『市長と語ろう地域懇談会』を開催した。」との話があった。下田会員から救急搬送に関し冬期間の道路の確保は重要であり行政の対応が必要との指摘があった。

山谷副知事からは「大雪などの災害対応については、職員全員が情報を共有して、富良野医師会や地元の市町村と連携をはかりながら必要な対応をしていきたい。地域枠の医師については、北海道の医師として一人前に育ってもらうためのシステム作りを医師会など関係者と議論して、行政も全力で地域医療の確保に取り組んでいきたい。」とのコメントがあった。

出席いただきました医師会役員・会員の皆様、道庁・保健所・市役所の皆様に感謝申し上げます。



小樽市の模様



富良野市の模様